

ママサポートえぷろん

《第 69 号》

ぽけっと

発行 2016年 9月 30日
編集 特定非営利活動法人
ママサポートえぷろん事務局
発行責任者 帯谷 昭子

ただ前を向いて

理事長 帯谷 昭子

8月17日午後10時過ぎ、台風7号による「避難勧告発令」、向かいに住んでいる私は、すぐさまうらら花に駆けつけました。その日は夜勤2人体制をとっていたので職員3人で避難を開始。「夜のドライブだよ～」訳がわからないまま車に乗り込むうらら花の住人達。そのうちスタッフがもう一人到着し、テラスハウスぽのぼへの避難は無事終了、皆さん眠りにつきました。スタッフ全員でホッとひと息つくと、トイレに起きてきたSさんが、テーブルのアンパンに釘付け、「食べたーい」と。ところが、入れ歯がないことに気づき、管理者がうらら花へ取りに行くことに。それが12時頃でした。そしてめでたくアンパンを食べ終え再び眠りにつきたSさん。さて、と、再びうらら花の様子を見に行ったら私「絶句!!」 12時30分、うらら花は水没していました。当然我が家も・・・。

その瞬間からのめまぐるしい時間の流れは、すさまじいものでした。スタッフ一丸となりうらら花に戻るべく片付けを開始。役場職員を始め多くの方々にお力をいただき、週末には戻ろうと、強い覚悟で臨んでいました。ところがまたもや台風が……。今度はぽのぼにも避難指示が出たため、避難民が9人から20人となり、デイサービスセンターで2泊お世話になりました。

2泊めの朝、一番恐れていたことが起きました。Wさんがベットから落ちて顔面に怪我をしてしまったのです。どこにいても自分達さえいれば利用者さんを守れるという自信が消え失せました。この時、私は、「うらら花には戻らない」という大きな決断を下しました。

対応策はその日のうちに町と協議し、①うらら花は6人型グループホームとして存続、②ぽの住民3人は旭町の公営住宅に転居しぽののサービスを受ける、③ぽの退去予定のあった方は予定を早め退去してもらう。でした。

決断を下してからも、これで良かったのだろうか、私の中で迷いがありました。この対応で今の住居から出なければならぬの方々に対して本当に申し訳ない気持ちでいっぱいだったからです。しかし、岩手県のグループホームの9人が死亡したという水害被害を知ったとき、迷いはなくなりました。「これが最善策なんだ!」と。

この1ヶ月間、公私含めて色々なことがありました。多くの方々から支援していただき、「人の温かさ」を実感しています。この場を借りて感謝の気持ちを伝えたいです。

そして、もう一つ、ママサポのスタッフがいかに素晴らしいかも実感しています。ママサポが始まって以来最大の試練、数多くの困難に立ち向かう職員達の姿勢に感動すら覚えています。このスタッフ達とならこの試練、必ずや乗り越えられると信じ、今はただ前を向いて歩んでいます。

現在、旭町2丁目のうらら花だった建物を何とか改修し、自立度の高い方々のぽのぼの2号館として再建できないか検討しています。また皆様からさらなるご協力、ご支援を賜りたく重ねてお願い申し上げます。



このたびの台風7号による当地での水害にあたりましては、皆様から早速心強いお心遣いまたご協力を頂きまして、心より感謝いたしております。

今はまだ後片付けや慣れない環境での生活で、入居者の皆様ならびにご家族の皆様にもご迷惑をかけている状況ではありますが、一日も早く通常業務に戻れるよう努力しておりますので、ご安心いただければと思います。ママサポートえぷろん始まって以来最大の試練、数多くの困難…。ですが理事長の言葉通り、この試練や困難は必ず乗り越えられると信じ、スタッフ一丸となって邁進したいと思っております。

しばらくは様々な場面で皆様にご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、今後とも引き続きお力添えを賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

事務局長 山田美香

昨年、うらら花に高卒の新人職員が入社しました。【介護職】と聞けば、世間では敬遠されがちな仕事とされています。しかし「あえてこの仕事に」と志望し、当法人に入社してくれた貴重な新人職員！！

社会人一年生。わからないことばかりで当然ですし、心が折れそうになったこともたくさんあったと思います。ですが日々頑張り続けてきたことで、今では大きな即戦力となってくれました。今後も大いに期待しています。



あつと言う間の1年と半年

グループホームうらら花 福田 栄子

私がグループホームうらら花で働くようになり、早いもので2年目になりました。1年目の4月はまず、利用者さんの名前を覚えることから始まりました。なかなか顔と名前が一致せず、覚えるのが大変でした。

その後は自己紹介。コミュニケーションを図るのが苦手な私は、ただただソファに座ってテレビを見ることが多かったように思います。そんな中でも話しかけて下さる利用者さんがいて、少しずつではありますがお話しする機会が増え、段々と会話ができるようになりました。ですが1人、なかなか心を開いてくれない利用者さんがいました。その方は新人スタッフが入ると慣れるまで時間がかかるようです。バイタル測定では手も触らせてもらえず、目が合えば何かをつぶやいたり。しまいには大嫌いと言われてしまいました…。さすがに「やめたい」と感じたことを思い出します。かなりショックで吐いたこともありました。でもとりあえず3カ月→1年と、まずは小さな目標を掲げて頑張ることにしました。それからはバイタル測定やトイレ誘導する時も、なんとなく覚悟してから臨むと気持ちが楽になるという事に気づきました。【自分の気持ちは相手にすぐ伝わる、感じ取られる】と聞きましたが、私は覚悟しないと心が折れそうになっていました。ですがそうしていく内に、ほんの少しずつではありますが、その方の笑顔が見られるようになりました。第一関門突破です。

次なる私にとっての課題は、利用者さんのトイレ誘導・食事作り・入浴介助…と、次々に現れました。トイレ誘導では声掛けから車椅子の位置などなど…。スムーズにできるようになるまで結構時間がかかりました。食事作りは、家では全くしなかったことを反省しています。今でも苦戦することはありますが、以前ほど気持ちが焦らなくなってきました。入浴介助についても、やはり声掛けから始まります。私は声掛けが苦手だと気づきました。何度か先輩に代わってもらったり手伝ってもらいながら、ようやく全員の入浴介助を覚えることができました。課題が出来てもクリアできるんだという経験が、少しずつ自信に繋がっていると思います。今でも声掛けなどで迷ったり戸惑うことはありますが、何事も経験。これからも頑張ります！



いろは坂

「あっぱれ！」と「喝！」

8月17日の夜、防災無線が「浸水の恐れがあります。ただちに避難してください」と放送した。

すでに風呂に入り、ジャマ姿だった私は、窓を開けて外を見た。一日中降り続いていた雨はすであがり、青白い月が空に浮いている。道路は乾いていて、いつもの雨上がりと変わりなかった。

夫は、「ちょっと避難所の様子を見てくると、懐中電灯を手にして出かけていった。気楽な感じだった。

間もなく、町の広報車が近所を回り始めた。「危険です。急いで避難してください」

着替えて、袋にタオル、軍手、水などを詰めこんで、とりあえず家を出た。短い靴を履いて、お隣のご夫婦と3人で、まるで夜の散歩気分です。避難所に向かった。すぐに帰るつもりだった。

途中、近所のグループホーム「うらら花」の住人が、スタッフに支えられながら次々と車に乗るのを見た。そのとき

広井 数子

私は、「あらー、用心深いこと。大丈夫だよ」と軽く笑った。このことを、私は数時間後に後悔することになる。

避難所で一夜を過ごした私は、翌朝、とんでもない光景を目にして仰天した。我が家を含む一帯が泥水に囲まれている。「うらら花」も、床上まで浸かっている。

その後の数日間のことには、思い出したくない。「これは悪い夢だ。お願いだから早く覚めて」と、何度思ったことか。「うらら花」は、元の場所での再開をあきらめたと聞いた。ダメージは大きい。

しかし、早めの避難を決断して、全員の命を守りきったスタッフのプロ意識と素早い行動力には、特大の「あっぱれ！」を贈りたい。

自然の力を侮って、車2台をみすみすダメにした私は、もちろん「喝！」だ。

◆ひなたぼっこ◆

8月の浴衣祭りの様子です。皆さんとっても素敵でしたよー！

